

麦WCS及び麦SGSの生産給餌試験事業 千葉

野田市畜産クラスター推進協議会

冬期の畑地の表土飛散防止対策のために栽培されている収穫を目的としない麦を、飼料として活用することにより、酪農家での飼料コストの低減及び耕作放棄地の抑制を実現

構成員と役割

<生産者等>

野田市酪農家
(麦WCS及び麦SGSの給餌試験
飼料費低減効果の検証等)



農事組合法人 営農きまがせ
(麦WCS試験生産等)

野田市農政課
(事務局、総括)



株式会社 野田自然共生ファーム
(麦SGSの破碎加工、飼料運搬)

※野田市堆肥センターを管理している第3セクター

<関係機関等>

千葉県東葛飾農業事務所
(技術指導・データ分析等)

ちば東葛農業協同組合
(乳成分分析等)

**千葉県農業共済組合連合会
西部家畜診療所関宿出張所**
(診療、助言等)

実証内容

市単独事業により、冬期の畑地の表土飛散防止対策と景観の保全を目的に栽培されている麦を活用し、麦WCS及び麦SGSを試験生産する。生産された飼料は、乳牛へ実証給与し、乳量・乳質への影響等を確認し、コスト低減効果を検証する。
この結果を踏まえ、麦の飼料化について、検討する。

効果

【飼料コストの低減】

麦WCS: 12.5円/kg(水分70%)
輸入乾草1kgと麦WCS3kgを置き換え
55円/kg → 37.5円/kg

麦SGS: 27円/kg(水分25%)
配合飼料1kgと麦SGS1.3kgを置き換え
50円/kg → 35.1円/kg

【地域の収益性向上】

地域全体で麦WCS 5ha、麦SGS 5haに
取り組んだ場合の生産量と置き換えられる
飼料の量(年間)
麦WCS: 75,000kg → 輸入乾草: 25,000kg
麦SGS: 15,000kg → 配合飼料: 11,538.5kg

麦WCS: 437,500円 } 合計609,423円の
麦SGS: 171,923円 } コスト低減